

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(1) 歯科医の訪問歯科診療の実施状況

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>1. 訪問歯科診療の対応表：令和元年7月版を作成                      ・令和元年10月中旬 介護事業者連絡会を通じて配布                      ・医師会、薬剤師会へ配布依頼                      ・関係機関へ配布</p> <p>2. 対応表と各医院のホームページ、歯科医師会ホームページの医院情報については、チェック、確認し順次修正。</p> <p>3. 衛生士会との連携やフリーの歯科衛生士の発掘、専門的な口腔ケアができ、施設職員や家族に指導できるような人材の養成に取り組む。人材養成は難しいが、衛生士会と定期的に会議をもち、情報交換、研修会、情報の共有、個々のレベルアップ、連携を行う。                      ⇒ 歯科医師会は、小牧市。衛生士会は尾張北部と活動拠点が異なるため、小牧市内で活動できる衛生士が少ないなど連携が難しい状況にある。</p> <p>4. 介護施設職員への口腔ケア等、研修機会の希望の有無の確認</p> <p>5. 在宅で暮らす高齢者で歯科治療や口腔ケアが必要な方を顕在化するための方法の検討</p>	<p><b>【佐々木委員】</b></p> <p>1. 令和元年7月版からの変更はありません。今一度、調査をします。</p> <p>2. 歯科医師会のHPをリニューアル中であり、医院情報をチェックし、順次修正します。</p> <p>3. 新型コロナウイルス感染症の影響により、進捗はありません。</p> <p>4. 新型コロナウイルス感染症の影響により、進捗はありません。</p> <p>5. 新型コロナウイルス感染症の影響により、進捗はありません。</p>	<p><b>【佐々木委員】</b></p> <p>1. 訪問歯科診療の対応表の令和3年度版作成と関係機関への配布。</p> <p>2. 上記対応表と各歯科医院のHP及び歯科医師会HPの医院情報の確認と修正。</p> <p>3. 歯科衛生士の人材確保のため施策を講じる。専門的な口腔ケアができる歯科衛生士の育成。歯科衛生士会との協議と講習会の開催。</p> <p>4. 介護施設職員への口腔ケア等、研修機会の希望の有無確認。</p> <p>5. 在宅で暮らす高齢者で歯科疾患を有する者を顕在化させる方法を検討。                      在宅で暮らす高齢者の歯科検診ができないか検討していく。                      介護認定調査員を対象とした歯科疾患とオーラルフレイルについての講習会の実施。</p>	<p>佐々木委員</p>

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(2) 薬剤師の訪問薬剤管理指導の実施状況

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>49 保険薬局のうち 40 薬局は在宅患者訪問薬剤管理指導の届出を出している。実際に在宅の受入れができる薬局は 16 薬局で、このうち 24 時間対応できる薬局は 8 薬局である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有志による在宅医療介護連携委員会を開催。全 9 薬局が参加し、在宅の受入れ体制について協議した。</li> <li>・無菌室保有薬局は、メンバーにおらず、検討課題である。</li> <li>・麻薬については、緊急時のための小売業者間の譲渡申請について協議した。</li> </ul> <p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の資質の向上</li> <li>・比較的安定した患者様からでも良いので、会員の在宅経験の積み上げが必要である。</li> <li>・無菌保有薬局との連携</li> <li>・介護事業所等との連携強化</li> <li>・こまきつながるくん連絡帳登録会員への周知</li> </ul> <p>⇒ 登録薬局：19 薬局に増加したが、38%にとどまっており、更なる周知を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療推進委員会の拡充</li> </ul>	<p><b>【浅井(宏) 委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つながるくん連絡帳登録会員は 22 薬局に増加。</li> <li>・薬局毎の濃淡はあるが、在宅訪問実績は増加してきている。</li> <li>・ケアマネジャー様や介護事業所様などと情報交換する機会を積極的に増やしていく必要性を感じている。</li> </ul>	<p><b>【浅井(宏)委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地道な啓発活動を継続していく必要がある。</li> <li>・対面でない形であっても運用可能な情報交換会などを作っていく必要がある。</li> </ul>	<p>浅井(宏)委員</p>

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(3) 各介護保険サービス事業所についての情報共有

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p><b>【伊藤(里) 委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年6月30日こまき介護展を実施、令和元年は来場者320名。</li> <li>市民へ介護保険制度をアピールするための企画だが、事業者間相互のネットワークの強化と情報交換の場となっている。</li> <li>毎月、各事業所部会が研修を企画している。研修は事業種にこだわらず参加を呼びかけており、多職種が一堂に会して学習する機会となっている。</li> <li>研修テーマも「認知症について」や「褥瘡予防」等、医療と介護の連携を意識したものも実施している。今後の研修も各部会で企画検討し、専門職ネットワークの強化をめざしていく。</li> </ul> <p><b>【包括】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内居宅介護支援事業所が5グループに分かれて、3か月に1度の頻度で事例検討会を行っている。各グループの中に、いずれかの包括が参加し、ケアマネジャーとの情報共有、連携を図る機会を作っている。</li> <li>包括で圏域内の介護保険サービス事業所との交流会を企画している所もある。今後は、包括全体で事業所や専門職間の交流や情報交換の場が企画できるようにしていきたい。</li> <li>連携強化に向けて、居宅と包括の垣根が無い、関係性の構築が必要と考える。</li> </ul>	<p><b>【伊藤(里) 委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度のコまき介護展は中止となったが、令和3年度のコまき介護展は、新型コロナウイルス対策をして6月20日に開催予定。</li> <li>令和2年度に各事業所部会が実施した研修は、通所部会、施設部会、訪問介護部会は、「新型コロナウイルス感染予防対策アンケート」、小規模多機能居宅介護部会は、「消防防災計画についてのアンケート」の実施と取りまとめを行なった。</li> <li>訪問介護・訪問入浴部会、福祉用具・住宅改修部会共催で、「褥瘡予防について」の研修会(3/10)を実施。</li> <li>居宅介護支援部会は、小牧市介護支援専門員連絡協議会等と共同して、「ウイズコロナ～ケアマネが今できること」(11/27)、3月に「介護予防プランの基礎を学ぶ」(3/18)、「災害の前に備えること」(3/25)の研修を実施、予定している。</li> <li>市民講座「介護保険について学ぶ講座」は、市民向けのため、コロナの状況を考慮して令和2年度は中止とした。</li> </ul> <p><b>【小林委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍により、事例検討会や事業所交流会が予定通り開催出来ていない。</li> <li>主任ケアマネとして研修企画を行い、居宅支援事業所の主任ケアマネとともに学びの場を持っている。</li> <li>居宅、包括、サービス事業所との連携強化に向け、ケアマネジメント支援推進部会が中心となり、事業所交流会等を企画していく。</li> </ul>	<p><b>【伊藤(里)委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの状況を考慮した具体的な実施内容を考えていくことが必要。また、研修会の企画について、必要に応じて部会同士の共同した取り組みが必要。</li> <li>令和3年度は、4月24日(土)に総会と全体会、また、各部会が担当する研修会と市民講座を予定している。</li> </ul> <p><b>【小林委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で、交流の機会が確保できない状況があるため、ICT等の活用を広めていく必要がある。</li> <li>他研修等の内容も考慮したテーマ設定が課題。</li> </ul>	<p>伊藤(里)委員 小林委員</p>

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(4) 医療・介護資源の情報収集・管理

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規開業クリニック（2箇所）を訪問し情報収集した。</li> <li>・令和元年度「在宅医療に関するアンケート」を医師会員の先生方に実施回答待ち。毎年県医師会依頼の実態調査もあわせて実施した。</li> <li>・こまきつながるくん連絡帳の登録についての質問もアンケートに盛り込んでいる。</li> </ul> <p><b>【市】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こまきつながるくん連絡帳の運営事業者の移行に伴い、こまきつながるくん連絡帳と医療・介護マップが一体管理となったことから、登録率向上に向け、チラシを作成し、サービス事業者連絡会、ケアマネジャーの総会において配布し、周知を図った。</li> <li>・小牧市医師会のご協力のもと、医師会理事の先生方を個別訪問し、登録支援を行った。</li> <li>・紙媒体で作成していたケアマネジャー等の医師との連絡調整に必要な情報を取りまとめた「医師とケアマネ一覧」に掲載している内容について、こまきつながるくん連絡帳に機能を追加するよう調整している。</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規開業クリニックの情報確認を行い訪問し情報収集する。</li> <li>・県医師会依頼の実態調査を実施した。</li> <li>・こまきつながるくん連絡帳の登録についてもご案内を継続する。</li> <li>・「医師とケアマネ連携一覧」更新のため医師会、薬剤師会へアンケート調査を行った。「こまきつながるくん連絡帳」に追加するデータを市へ情報提供する。今後、歯科医師会はアンケート調査を行い情報提供する。</li> </ul> <p><b>【伊藤(俊)委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい福祉施設のこまきつながるくん連絡帳への登録により、登録数が増加した。新規登録等の問合せに随時対応している。</li> <li>・こまきつながるくん連絡帳の機能改善内容、駐車場シェアシステムの利用についてシステムを用いた説明会をオンラインで実施した。</li> <li>・医師とケアマネ連携一覧は、概ね完成し、3月中にこまきつながるくん連絡帳へ掲載する予定。</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こまきつながるくん連絡帳の登録について医師会登録状況は少し向上した。</li> </ul> <p><b>【伊藤(俊)委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師とケアマネ一覧掲載後に、情報が古くならないよう最新に保つ方法を検討する必要がある。</li> <li>・情報連携手段として、市内医療機関の登録を促す必要がある。</li> </ul>	<p>磯村委員 伊藤(俊) 委員</p>

(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

(1) 医療・介護の関係団体との連携

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p><b>【磯村委員】</b>                      ・サポートセンターは地域ケア会議への参加はまだできていない。                      ・個別で訪問などを実施する中で、いくつかの地域包括支援センター、医療・介護事業者などと協議はしているが、定期的な情報交換等をする機会を設けていない。                      ・サポートセンターとして、地域包括支援センター管理者会議で、相談対応の情報共有をするとともに、他機関への連絡調整など、ネットワークが必要である。</p> <p><b>【包括】</b>                      ・地域ケア個別会議では、主に「認知症、独居、災害時対応、健康管理＝安否確認」がテーマになることが多いが、「ターミナル期」の見守り体制についても話題となっている。                      ・今後も、“独居でも、自宅で最期を迎えたい”という方は増えてくることが予想される。実際、担当者会議でも、そのための体制作りにも触れる機会が増えていく。                      ・ケアマネジャーには、介護保険サービスにはない見守り体制（ネットワーク）作りのためにも、地域ケア個別会議を活用してもらえるように、事例検討会や担当者会議でも継続して働きかけ、提案していきたい。</p>	<p><b>【磯村委員】</b>                      ・地域包括支援センターと相談対応での情報共有は会議で行っている。</p> <p><b>【小林委員】</b>                      ・コロナ禍で地域ケア個別会議の開催数が大幅に減少している。                      ・身寄りがない方への対応が増えてきている。                      ・身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人の支援の対応方法等について医療・介護支援者の共通認識が乏しい。                      ・包括が関わった身寄りのない人への支援のケースについて、次年度前半を目途に、分析、集計をしている。                      ・ケアマネジャーからの地域ケア個別会議開催依頼は少ない。                      ・ケアマネジメント支援推進部会にて地域ケア個別会議のマニュアルを見直していく。</p>	<p><b>【磯村委員】</b>                      ・サポートセンターは地域ケア会議への参加はまだできていない。                      ・相談対応内容について医療介護関係者で情報共有し他機関とのネットワークをつくっていけるとよい。</p> <p><b>【小林委員】</b>                      ・地域課題について資源開発・政策形成を市全体で検討する場がない。                      ・医療・介護の連携強化の為に、つながるくんの活用促進が必要。                      ・医療・介護支援者の共通認識をどのように図っていけるか。また、身寄りのない人への意思決定支援について、医療・介護及び権利擁護の視点で支援する体制づくりが必要。関係機関での検討会等をすすめたい。                      ・地域ケア会議個別の有効性が見える化し、ケアマネジャーにとって、地域ケア個別会議を活用したいものとなるよう包括として、検討する必要がある。                      ・自立支援や重度化防止の多職種カンファレンスの実施が出来ていない。多職種の意見交換の場であり学びの場として、実施していく必要がある。</p>	<p>磯村委員 小林委員</p>

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

(1) 医療機関と訪問看護・ケアマネジャーの連携

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療と介護の連携のために、主任介護支援専門員で立ち上げた研修企画に参加させていただき他職種を知ることが出来た。今後、ニーズにあった「医療・介護勉強会」を開催することにより、お互いの理解を深め、連携を強化したい。</li> <li>・訪問看護とケアマネジャーの連携強化に向けて、勉強会だけではなく、サポートセンターとして取り組む必要があると考える。</li> </ul> <p><b>【大野委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度においてもケアマネジャーを軸とした医療機関、訪問看護師との情報交換会は開催していない（研修過多との意見）が、多職種連携カンファレンス、在宅医療・介護連携研修会及び医療・介護勉強会、多職種意見交換会やの研修会等を連携の機会と考えて個々で参加している。</li> <li>・医療依存度の高いご利用者において、日常生活援助における医療的なアセスメントや判断が必要不可欠であることから勉強会・研修会等を通して、更なる訪問看護師とケアマネジャーの打ち解けた関係づくりを基本とした情報共有への取り組みが必要である。</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、「医療介護勉強会」は1回（オンラインにて）開催となった。（新型コロナウイルス感染拡大にて）</li> <li>・今後も訪問看護・ケアマネジャーとの連携強化にむけ医療に特化した勉強会を開催し理解を深めるとともにニーズにあっているか医療介護関係者と定期的に報告調整する。</li> </ul> <p><b>【大野委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で訪問看護とケアマネジャーの情報交換会や事例検討会などは実施できていない。</li> <li>・個別ケース対応においても院内への立ち入りや訪問などを控えており、十分な連携が行えていない状態。</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催内容によっては、オンラインと併用で開催するなど、工夫が必要。</li> </ul> <p><b>【大野委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、在宅看取りや入退院連携、介護の重度化予防等を考えると、医療・介護連携の体制はますます重要となることが予想され、中でも在宅ケアの要となる訪問看護とケアマネの連携は強化する必要がある。</li> <li>・コロナ禍のため、現場が煩雑になっていることと、感染予防のため行き来がしにくい状況であるが、必要な連携が取れるよう工夫することが求められている。</li> </ul>	<p>磯村委員 大野委員 丹羽委員</p>

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

(2) 副科受診の支援

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> <li>副科紹介ツールの活用は継続しており、副科の対象拡大にむけて、婦人科、皮膚科、関係機関と調整している。</li> <li>副科の対象拡大に向けては、今後、対象科の選定を含めて、関係機関と調整していく必要がある。</li> <li>紹介ツールの書式の複雑さについて課題があり、わかりやすいツールの検討が必要である。</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>副科の対象拡大は婦人科、泌尿器科と調整し、眼科、耳鼻咽喉科は当初より継続している。</li> <li>副科紹介ツールの活用は継続し書式は紙ベースで行う。</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ケアマネジャーからの副科紹介依頼は少ない。</li> </ul>	<p>磯村委員</p>

(3) 摂食嚥下サポートチームの活動支援

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> <li>小牧ごっくんサポートチームは定期的に会議を開催し、「摂食嚥下評価スコア 2019」（小牧ごっくんサポート版）を作成し、試験運用している。</li> <li>チームが構成されたものの、具体的な活動展開に向けては、それぞれ通常業務を抱えた中での活動であることから、課題が多い。</li> <li>出張勉強会についても、対象施設の選定や、講師役となる人員の確保が課題であるとする。</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小牧ごっくんサポートチームは会議とチーム内勉強会をオンラインで開催した。</li> <li>「摂食嚥下評価スコア 2020」を第1回「医療介護勉強会」として医療介護関係者を対象にオンライン開催した。</li> <li>今後小牧ごっくんサポートチームは医療介護関係者に摂食嚥下評価スコアを小牧の評価基準となるよう取り組む予定。</li> <li>出張勉強会は6月にシリーズ⑤を開催した。</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出張勉強会は対象施設の選定や講師の人員確保等課題がある。</li> <li>感染対策のため対面開催が難しい。</li> </ul>	<p>磯村委員</p>

(工) 地域の医療・介護関係者の情報共有の支援

(1) 病院とケアマネジャーの連携

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>・医療と介護の連携シートの活用状況について調査を実施。</p> <p>⇒ 平成30年度との比較をすると、「入院時にシートを病院へ送っている」が54%→79.2%に。「退院時にシートもしくはサマリーをもらっているか」が28%→83.3%に上昇。連携の意識としては確実に向上している。</p> <p>・今後は手続きをマニュアル化するなど効率的に業務が進められるようにすることも必要である。</p>	<p><b>【田中委員】</b></p> <p>・医療と介護の連携シートの活用状況についてはR3に調査予定。</p> <p>・平成30年度改正の折に厚生労働省が様式例を提示している。</p> <p>・小牧市板の医療と介護の連携シートの活用方法については、簡易マニュアルをつくりケアマネジャーに周知を図るとともに、ホームページ上で公開している。</p>	<p><b>【田中委員】</b></p> <p>・入退院時情報連携加算がつき、ケアマネジャーが病院と連携しようとする意識は高まっていると思われる。但し、書類作成の手間に対する負担感の意見は聞かれる。</p>	<p>田中委員</p>
<p>・平成30年度：市内で226件の連携シートが活用された。ほとんどの事業所で「医療と介護の連携シート」が使用されている。</p> <p>・2019年4月から9月まで：93件</p> <p>・現在、ACPを少しずつではあるが進めているが、この場合、連携シートに記載するのではなく、「ACPサマリー」で連携を行っていく予定である。</p> <p>・連携シートの項目については、医療と介護の話し合いを行い、質的評価を行っていく必要がある。</p> <p>・患者、家族の思いを地域の中でつなげていくにはどうしたらよいか検討する場が必要である。</p>	<p><b>【三谷委員】</b></p> <p>・令和元年度、市内で158件が「医療と介護の連携シート」で連携された。</p> <p>・令和2年度2月末現在では198件となっている。</p> <p>・コロナ禍でご家族との面会が制限されている中、介護関係者の方には調整会議に参加を依頼しているが、同じ事業所から複数人が参加することは遠慮していただいているので、ご迷惑をおかけしていることと思う。</p> <p>・現在、緩和ケアセンターにおいて、Webを活用した会議および研修を少しずつ始めている。今後は、緩和以外の会議や研修会をWebで行えるよう準備していきたい。なお、希望する2親等までの親族を対象にオンライン面会を開始する予定である。</p>	<p><b>【三谷委員】</b></p> <p>・新型コロナウイルス感染症が収束しない中、会議の開催や研修をどのように企画したらいいか、検討が必要。</p>	<p>三谷委員</p>

(工) 地域の医療・介護関係者の情報共有の支援

(2) ICTの運用（機能強化）

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>こまきつながるくん連絡帳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活用促進に向けた出張 説明：47 か所</li> <li>・登録施設数：148 か所</li> <li>・登録患者数：105 名</li> </ul> <p>※令和元年10月1日時点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議、専門職間の連携ツールとしての活用が広がってきている。</li> <li>・令和元年度はモデル的に、会議案内について、こまきつながるくん連絡帳を活用して周知するよう操作方法や文面案を作成し、サポートセンターに依頼している。</li> <li>・電子@連絡帳の広域活用を目指し、尾張北部（春日井市、岩倉市、小牧市）、尾張東部、尾張中部の市町と連携協定を締結した。</li> </ul>	<p><b>【伊藤(俊)委員】</b></p> <p>こまきつながるくん連絡帳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活用促進に向けた電話及び出張による説明：10 か所程度</li> <li>・登録施設数：214 か所</li> <li>・登録患者数：139 名</li> </ul> <p>※令和3年2月末時点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議案内や説明会などこまきつながるくん連絡帳を活用し周知しており、連携ツールとしての活用が広がっている。</li> <li>・電子@連絡帳の広域活用を目指し、尾張北部（春日井市、岩倉市、小牧市）、尾張東部、尾張中部に加え、西三河北部、西三河南部東、東三河北部、東三河南部医療圏等の市町と連携協定を締結し、計46市町村となった。令和3年10月頃に半田市、西尾市、愛知県医療療育総合センター（県内小児連携）が加わる予定。</li> <li>・令和3年3月1日より駐車場シェアシステム「こまきハートフルパーキング」の利用を開始した。（3/1現在、22者、計53台の提供があった）</li> </ul> <p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議開催案内、議事録、オンライン会議の資料等こまきつながるくん連絡帳を通して周知連絡ツールとして活用している。</li> </ul>	<p><b>【伊藤(俊)委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録施設、登録患者数ともに伸びており、連携ツールとして活用が進んでいると認識している。</li> <li>・引き続き、施設登録数を増やすため、関係機関の協力をお願いしたい。</li> <li>・広域化に向けては、構成市町ごとで運用規定等が異なることから、運用に際し生じた課題については、連携市町間で協議していく必要がある。</li> <li>・「こまきハートフルパーキング」の駐車場登録数を伸ばす必要がある。周知は、広報、全戸回覧、民協、ホームページ、動画作成などを行い、個別依頼として各団体（三師会や商工会議所等）へ通知した。</li> </ul> <p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会開催の周知はこまきつながるくん連絡帳のみでなく、未登録の方への周知方法を確立する必要がある。</li> </ul>	<p>伊藤（俊）委員 磯村委員</p>

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(1) 在宅医療・介護連携サポートセンターの運営

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口対応を継続し、2019年4月から9月まで、約25件の相談や問い合わせがあった。</li> <li>・相談件数が少ないが、医療介護関係者の顔の見える関係ができており、サポートセンターを介さず対応ができていことも考えられる。</li> <li>・今後とも関係事業所や市民に対し、サポートセンターの相談窓口としての機能の普及啓発を継続する。</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度は63件の相談や問い合わせを受けた。令和2年4月から令和3年2月まで43件対応した。</li> <li>・今後も関係事業所や市民に対しサポートセンターの相談窓口として普及啓発を継続する。</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の相談窓口としてサポートセンターの周知啓発がまだまだ必要である。</li> </ul>	磯村委員

(2) 在宅医療・介護連携サポートセンターと地域包括支援センターの連携

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療介護勉強会の企画やサポートセンター会議等が連携の場となっているが、地域包括支援センターの役割のなかで、サポートセンターが協働してできることについて具体的な取り組みまでできていない。</li> </ul> <p><b>【包括】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートセンター会議では、サポートセンターが中心となり医療や介護の各機関と顔合わせができ情報交換の場としても活用できている。</li> <li>・互いの活動内容の報告程度であり、連携に向けた具体的な取り組み等の協議をしていく必要があると考える。</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターから医療に関する相談について対応しており連携はできている。</li> <li>・地域包括支援センターの管理者会議に参加して情報共有している。</li> <li>・生き生き人生プロジェクト会議も委員として参加し連携している。</li> </ul> <p><b>【小林委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・包括の管理者会・サポートセンター会議に互いに参加し、相談、連絡がしやすい関係づくりに努めている。</li> <li>・個別のケースについて、受診先など医療機関について相談、連絡をしている。</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターと協働してできる取り組みの協議はできていない。</li> </ul> <p><b>【小林委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状では、互いの活動内容の報告程度であり、連携に向けた具体的な取り組み等の協議をしていく必要があると考える。</li> </ul>	磯村委員 小林委員

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(3) アウトリーチ型の相談体制の充実

これまでの報告内容（令和元年 10 月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p><b>【田中委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン側の巡回相談に対する理解が浸透しておらず、今後もサロンでの専門職相談を継続し、地域の身近な相談窓口として定着を図りたい。</li> <li>・サロンの巡回相談については、地域支え合い推進員 4 名と 5 包括で行っている。令和元年 5～9 月まで 144 ヶ所、相談件数 86 件。キャッチしたニーズはこまきつながるくん連絡帳を活用し、関連する専門機関と共有している。</li> <li>・こまきつながるくん連絡帳を利用し相談を共有しているが、報告のみに終わりがちで、そこから支援や専門職ネットワークづくりに展開できていない。今後、ICT 上の連携も課題となっている。</li> </ul> <p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターに同行し、市民にサポートセンターの啓発を行なった。</li> <li>・サポートセンターのちらしと啓発グッズを手渡し介護関係者と市民につながるよう、各事業所へ訪問した。</li> <li>・第一病院の外来のテレビに、市制日より放映を活用しサポートセンターの紹介を加えて放映している。</li> </ul>	<p><b>【田中委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 2 年度のサロンへのアウトリーチは地域支え合い推進員が定期的に訪問し、ニーズ把握する方法で行った。相談内容によっては、各地域包括支援センター等の専門職につなげている。</li> <li>・今年度のサロンはコロナ禍のため年間で 4 ヶ月のみの不定期開催となり、約半数のサロンが活動休止となったが、保健センターの管理栄養士も訪問に加わり、フレイル予防に関する啓発を行う中、ニーズ把握にも努めた。訪問時の情報はこまきつながるくん連絡帳にて共有している。</li> </ul> <p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「小牧市の在宅医療・介護」冊子を作成し医療介護関係機関に送付してサポートセンターの周知を図るとともに、市民に医療介護相談ができる窓口があることを広く周知できると良い。</li> <li>・地域包括支援センターに同行しサポートセンターの啓発を行なった。</li> </ul>	<p><b>【田中委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンの巡回相談については、サロン自体の催しの中で、じっくりと相談できる環境ではないため、巡回相談として窓口を設けることはせず、地域支え合い推進員や地域包括支援センターが巡回訪問した折に相談があれば対応するようにする。</li> <li>・相談対応した時には、必要に応じてこまきつながるくん共有・連携を図ることとする。</li> </ul> <p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートセンターの存在を市民へ周知啓発することが必要である。</li> </ul>	<p>田中委員 磯村委員 小林委員</p>

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(3) アウトリーチ型の相談体制の充実

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p><b>【包括】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市が実施した調査では、包括の認知度が3割弱と低い状況にある。</li> <li>・そのため、包括として、待っているだけでなく、各圏域で創意工夫し、相談体制の充実を図っている。</li> </ul> <p><b>【具体事例】</b></p> <p>銀行、病院、コミュニティセンター、量販店、サロン巡回相談として、社会福祉協議会の地域支え合い推進員と連携し、定期的にサロンを巡回している。その結果を、こまきつながるくん連絡帳を活用し、巡回相談の内容の共有、相談対応に向けて、適切な機関へつなぐことが出来ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化してからの相談ではなく、早期に相談を入れていただけるような相談機関となるよう、認知度を上げていくため、アウトリーチの強化が必要である。</li> </ul>	<p><b>【小林委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・包括の認知度向上を目指し、広報にて「知っている？ 地域包括支援センター」を奇数月15日号で掲載。</li> <li>・相談会等の開催についてはコロナ禍のため開催数が減少している。</li> <li>・包括PR、認知症高齢者等あんしん補償事業の普及啓発のため、企業等へ訪問実施中。</li> <li>・包括によっては、独自で発行するたよりを、地区回覧や市民の方が目にしやすい医療機関、薬局、市民センター等に設置し、地域と連携を図っている。</li> </ul>	<p><b>【小林委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・包括PRや相談会を開催する中、高齢者層には認知度が広まってきていると感じる。</li> <li>・関心が薄いと思われる、現役世代への周知方法を検討していくことが必要。</li> </ul> <p>（ダブルケア、ヤングケアラーも多い）</p>	<p>田中委員 磯村委員 小林委員</p>

(カ) 医療・介護関係者の研修

(1) 多職種連携研修の実施

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回「生きる力を支える歯科医療」参加者55名（内医師6名）</li> <li>・第2回「在宅に必要な精神科の基礎知識」参加者82名（内医師7名）であった。</li> <li>・第3回「在宅に必要な泌尿器科の基礎知識」</li> <li>・第4回「市民病院認定看護師による勉強会」</li> <li>・第5回「摂食嚥下（小牧ごっくんサポートチーム）評価スコア2020 小牧版」研修会を予定している。</li> <li>・第1回「在宅医療・介護連携研修会」災害をテーマに開催 参加者83名 ワールドカフェ方式</li> <li>・第2回令和2年1月23日に予定</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大により多職種連携研修会の開催が難しい状況で今年度開催できていない。</li> <li>・第1回「医療・介護勉強会」テーマ：摂食嚥下評価スコア2020 オンラインで開催（小牧ごっくんサポートチーム）参加者37名</li> <li>・今後、オンライン・対面で多職種連携研修会が開催できるよう方法等検討する。</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種が集まりグループワークができるネット、対面開催の環境作りが必要。</li> </ul>	<p>磯村委員</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2カ月に1回の定期部会を開催し、事業者連絡会や外部委員会での情報を共有している。また、訪問看護における問題点や課題などを話し合っている。</li> <li>・看護部会主催の研修会を、令和元年11月13日（水）18時30分から20時30分で開催予定。</li> <li>テーマ：「エンド・オブライフ・ケア 始まりの一步（仮）」</li> <li>対象：小牧市にある医療と看護・介護・福祉サービスに携わる方</li> <li>講師：久保田千代美氏・鈴木裕美氏（看護師）（エンドオブライフ・ケア協会認定ファシリテーター、iACP公認もしバナマイスター）</li> <li>訪問介護・訪問入浴部会主催の研修会「褥瘡予防」講師として協力していく。</li> </ul>	<p><b>【丹羽委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により定期的な部会開催はできなかった。</li> <li>・研修会の開催については、集まって行うことのリスクもあり、開催できていない。このことについては、各事業所と意見交換を行っている。</li> <li>・今後、集まった研修は考えていないが、オンラインでの研修情報などは、メールやラインで共有していく。</li> <li>・部会はZOOMでの開催を行っていく。</li> </ul>	<p><b>【丹羽委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響があるため、集まった研修開催は難しいと考えるが、会場の大きさ、人数によっては実施可能とも思う。また、オンラインで研修を行うことも考えていかなければならない。</li> </ul>	<p>丹羽委員</p>

(カ) 医療・介護関係者の研修

(1) 多職種連携研修の実施

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>・介護保険制度の要の職種として、多職種連携の情報交換会は必要であるため、今後はそれぞれの職種の方に負担がかからないよう調整を行い開催していきたい。</p> <p>・市の事例検討会や、市民病院や在宅医療・介護連携サポートセンター主催の研修を周知し、個々で参加する。</p> <p>⇒ 研修過多な声も出ているが、ケアマネジャーや訪問看護が必要な研修を取捨選択してもらうようにする。</p>	<p><b>【大野委員】</b></p> <p>・例年行ってきた多職種事例検討会等がコロナの影響で中止になり、多職種が合同で行う研修の機会がつかれなかった。</p> <p>・但し、ケアマネの会として市が作成する多職種カンファレンスの説明動画の監修をさせていただいた。</p> <p>・ケアマネジャーで行っている井戸端事例検討会も今年度は8グループが動いており、コロナ禍ではあるが、各1～2回は実施している。事例検討の中で多職種連携の検討を行っている。</p>	<p><b>【大野委員】</b></p> <p>・多職種連携については小牧市の地域包括ケアシステムを構築する上で重要なことであり、今後もあらゆる場面を捉えて進めていきたいと考えている。</p>	<p>大野委員</p>
<p>・五者連絡会等を通じ、他機関が行う研修内容や開催時期が重複しないように工夫している。</p>	<p><b>【小林委員】</b></p> <p>・五者連絡会等を通じ、他機関が行う研修内容や開催時期が重複しないように工夫している。</p>	<p><b>【小林委員】</b></p> <p>・各機関がそれぞれの想いで研修を企画し、研修過多とならないよう、全体を通じてのテーマ設定等が必要。</p>	<p>小林委員</p>

(カ) 医療・介護関係者の研修

(2) 在宅医療・介護の連携研修、勉強会等の実施

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> <li>・5者連絡会を開催。ケアマネジャーに関する研修日程の調整を行い、現在のケアマネジャーの課題について検討を行う。</li> <li>・現状からはガン末期患者、精神疾患の家族、ごみ屋敷等のケースへの対応が困難とのこと。</li> <li>・これらの課題に対して主任ケアマネジャーによる研修企画部会で研修を企画し実施している。</li> </ul>	<p><b>【田中委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年2月の5者連絡会でケアマネジャーの研修については、①ケアマネ連協、事業者連絡会、包括の有志による研修企画部会で研修の企画・運営する、②市からの受託金により運営し、参加費は取らない、③主任ケアマネ更新研修の受講に必要な4回実施する、④事務局はケアマネ連協が行う、等と取り決めている。</li> <li>・令和2年度は4回の研修を開催予定。24名が研修企画部会に協力している。</li> <li>・11/27に「ウイズコロナ～ケアマネが今できること～」をテーマに研修を開催。コロナウィルスについて上西内科の中畑先生にご講演いただき、名古屋市の包括とデイケアから実際にコロナ感染者に対応した経験を報告していただいた。また、3/25には災害時の対応をテーマに、薬剤師とケアマネジャーの連携について研修を行う予定。</li> </ul>	<p><b>【田中委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修企画部会による研修の実施は今年で2年目となり、実施に向けた手順などがようやく定着してきた。関わる主任ケアマネジャーのモチベーションも高く維持できている。</li> <li>・令和2年度はコロナの影響で会場の定員に制限があり、主任ケアマネが優先となってしまった。今後は経験の浅いケアマネジャーも含めてスキルアップができるような企画が必要だと考えている。</li> </ul>	<p>田中委員</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「在宅における福祉用具の選択について」～より安全なより良い生活のサポートを考えて～をテーマに美濃庄による勉強会を開催（令和元年8月28日）。</li> <li>・神経難病講座（春日井・小牧）に講師として参加（令和元年7月19日）。</li> <li>・ケアマネカレッジは依頼があればお受けする。会員向けの勉強会を他業種の方にも参加していただく。</li> </ul>	<p><b>【大橋委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先回予定していた“リフト”についての勉強会は、延期中。安全、安心を確保した後、開催予定。</li> <li>・神経難病講座は9月10日開催予定</li> <li>・ケアマネカレッジは依頼があればお受けする。</li> <li>・多職種連携カンファレンス、地域ケア会議への参加を促す。</li> </ul>	<p><b>【大橋委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場所及び人員の確保。</li> <li>・必要性の理解を深める。</li> </ul>	<p>大橋委員</p>

(カ) 医療・介護関係者の研修

(2) 在宅医療・介護の連携研修、勉強会等の実施

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>・同行訪問研修については、まだ実施に至っていない。今回の在宅医療に関するアンケート調査に同行研修について尋ねており、機会があれば同行したいと考えているとの回答があるので、今後取り組みに向けて検討する。</p>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同行訪問研修は実施できていない。</li> <li>・医療介護関係者への研修は 1 回オンラインで開催した。</li> <li>・多職種チーム内の勉強会は 2 回開催し 3 月に 1 回予定している。</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大予防のため対面開催が難しい。</li> </ul>	<p>磯村委員</p>

(キ) 地域住民への普及啓発

(1) 市民向け講演会の実施

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年2月8日、まなび創造館あさひホールで開催予定。</li> <li>・小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター会議の中で、市民講演会の内容等の検討をしており、こまき山劇団による「わた史ノートと ACP」をテーマにした寸劇を取り入れた講演会にする予定。</li> </ul>	<p><b>【伊藤(俊)委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を見送ることとした。</li> <li>・令和3年度も広報こまきに隔月で在宅医療・介護の啓発を図る。</li> </ul>	<p><b>【伊藤(俊)委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度は感染対策を施し、実施する方向で検討していくが、開催方法について工夫する必要がある。</li> </ul>	伊藤(俊)委員

(2) 在宅医療・介護に関する普及啓発

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケーブルテレビで市政情報の放映終了後、市政情報とサポートセンターの役割を合わせた啓発の地デジ放映を「第一病院外来」にて半年放映している。</li> <li>・各事業所を訪問しサポートセンターの啓発を行なっている。（ちらし、啓発グッズ）</li> <li>・奇数月の15日号の広報こまきにおいて、「在宅医療とは」として啓発コーナーを設け、サポートセンターの周知を実施している。</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「小牧市の在宅医療・介護」冊子を作成し啓発を目的に医療介護関係機関に郵送と訪問にて啓発を行った。</li> <li>・今後も広報こまきに「在宅医療とは？」と啓発コーナーでサポートセンターの周知を行う。</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した冊子を活用した普及啓発として市民に出前講座が開催できていない。</li> </ul>	磯村委員

(キ) 地域住民への普及啓発

(3) サロン等における在宅医療・介護に関する取り組み

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア推進課に講座の派遣機会を募っていただき、サロン等に出向いた。</li> <li>・サロンからの講座希望をお断りすることが無いように調整し、実施中。</li> <li>・民生委員の会議（6地区）、サロン連絡会（サロン代表者）などで講座を実施したことで、派遣を希望されるサロンが増えた。</li> </ul>	<p><b>【佐々木委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となりました。</li> </ul>	<p><b>【佐々木委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア推進課に講座の派遣機会を募っていただき、サロン等に出向く。</li> <li>・民生委員の会議、サロン連絡会などでの講座の実施。</li> <li>・コロナ禍の講座の開催はハイブリッド形式が良いかななどの検討。</li> </ul>	<p>佐々木委員</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・膝腰スッキリ体操：4回実施。今後4回実施予定</li> <li>・こまき山体操7回実施。今後も依頼があれば随時対応（令和元年11月11日予定）</li> <li>・サロン派遣：8回実施</li> </ul>	<p><b>【大橋委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・膝腰スッキリ体操はお休み中。</li> <li>・こまき山体操3月15日から再開。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自宅で行う体操・運動のビデオ制作。</li> </ul>	<p><b>【大橋委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場所、人員、感染対策。</li> <li>・時間、意志の共有。</li> </ul>	<p>大橋委員</p>

(キ) 地域住民への普及啓発

(4) わた史ノートの普及・啓発

これまでの報告内容（令和元年10月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<ul style="list-style-type: none"> <li>・わた史ノートの出前講座は、4回開催（H30）</li> <li>・地域包括支援センターが主催するわた史ノートの普及啓発は、12回開催（H30）</li> <li>・中学社会科副読本「小牧」にわた史ノートの関連記事が掲載され、中学生に配布された。</li> </ul> <p>ACP、わた史ノート、エンドオブライフケアなどの用語が混在しており、その用語の意味や目的を整理し、理解するため、関係者で「生き生き人生プロジェクト」が立ち上がり、検討中である。</p>	<p><b>【伊藤(俊)委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わた史ノートの出前講座は、R元年10月以降3回開催、R2年度は1回。</li> <li>・ACP、わた史ノート、エンドオブライフケアの意味や目的を整理し、普及啓発を図るため「生き生き人生プロジェクト」が立ち上がり、取り組みについて検討中である。</li> <li>・改めて、支所等へわた史ノートを50冊ずつ配布した。</li> </ul>	<p><b>【伊藤(俊)委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生き生き人生プロジェクト」にて引き続き検討を行いながら、地域における話し合いの場の環境づくりができるよう取り組んでいく。</li> </ul>	<p>渡邊委員 小林委員 伊藤(俊)委員</p>
<p><b>【包括】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座として依頼がくることが少なく、包括として、老人会、サロンなど様々な機会を通して「わた史ノート」の啓発を行っている。</li> <li>・啓発の際、実際にノートに記入して頂くなど座学だけで終わらず、活用して頂くよう努めている。</li> <li>・ACP（人生会議）という言葉も使われ始め、言葉だけが一人歩きしないよう、「生き生き人生プロジェクト」の検討状況を理解した上で啓発を行う必要がある。</li> </ul>	<p><b>【小林委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生き生き人生プロジェクト」で整理頂いた内容に合わせ、啓発活動を行う。</li> <li>・わた史ノート講話等の依頼があれば対応している。</li> </ul>	<p><b>【小林委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生き生き人生プロジェクト」の内容を把握し、言葉だけが一人歩きしないよう、しっかりと理解した上で啓発を行う必要がある。</li> </ul>	

(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

(1) サポートセンター連絡会議

これまでの報告内容（令和元年 10 月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・尾張北部医療圏と近隣のサポートセンター、保健所にて月 1 回在宅医療・介護情報交換会を開催している</li> <li>・各サポートセンターの進捗状況だけでなく、講師を招いて勉強会を開催。また、各市町のサポートセンターで「もしバナゲーム」体験を行なう。また、各市町の研修会に参加し医療介護関係者との連携強化も相談窓口のスムーズな対応に繋がっている。</li> <li>・医療介護連携シートについても広域な情報交換が可能な場である。</li> <li>・「在宅医療・介護情報交換会」が保健所主催で広域な会議として令和元年 10 月 8 日に開催され、在宅医療・介護連携推進事業の各市町の取り組みについて情報共有を行なう。</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・尾張北部医療圏と近隣のサポートセンターと保健所（3 保健所）参加にて月 1 回在宅医療・介護情報交換会を開催した。</li> <li>オンラインでの開催も行った。</li> <li>・医療・介護連携シートについても情報交換を行う。</li> <li>・今後も定期的に開催して在宅医療・介護連携推進事業の各市町の取り組みについて情報共有を行う予定。</li> </ul>	<p><b>【磯村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各市町の在宅医療介護連携推進事業の取り組みに各市町の対応を受け開催方法について調整する。</li> </ul>	<p>磯村委員</p>

(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

(2) 広域連携の推進

これまでの報告内容（令和元年 10 月末時点）	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p><b>【春日井保健所】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療・介護サポートセンターが毎月実施している尾張北部医療圏「在宅医療・介護情報交換会」について、令和元年 10 月開催分を保健所主催とし圏域内行政の担当にも出席いただく。情報交換内容（予定）としては、「医療、介護関係者の情報共有支援」、「終末期に向けた支援（看取り・ACP 等）」、「事業の目標値や評価指標の設定」等</li> <li>・愛知県看護協会尾張北部支部と保健所の共催で「地域での看取りを知り、共に考える」をテーマに医療圏内の関係者向けに研修会を開催する。（令和元年 10 月 30 日）</li> </ul>	<p><b>【木村委員】</b></p> <p>&lt;令和元年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療・介護情報交換会を開催し、圏域内各在宅医療・介護連携サポートセンター及び各市町の担当者と情報交換を行った。</li> <li>・愛知県看護協会尾張北部支部と共催で、圏域内の関係者向け研修会を開催した。</li> </ul> <p>&lt;令和2年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療・介護連携サポートセンターが実施している在宅医療・介護情報交換会に参加し、情報共有を行った。</li> <li>・圏域内各在宅医療・介護連携サポートセンター及び各市町の担当者ととの情報交換会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。</li> <li>・愛知県看護協会尾張北部地区支部と共催で、圏域内の関係者向け研修会「最後まで自分らしく生きる～誤嚥性肺炎事例から考えるアドバンス・ケア・プランニング～」をオンラインで開催した。</li> </ul>	<p><b>【木村委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域での情報交換会等について、コロナ禍における開催方法や内容等について検討していく必要がある。</li> </ul>	<p>木村委員</p>